

■過去の展示歴－2007年

04/23～06/02 「書写材料と印刷文化展」

06/18～07/28 「肉筆で見る近代文学の多彩な世界（ジャンル）」

09/25～11/05 「日本大学商学部構内の遺跡を掘る～世田谷区大蔵遺跡第8次発掘調査～」

11/15～11/30 「世界を魅了した日大文理のアスリート列伝」

12/08～12/24 「江戸八百八町をあるく」

2007年 4/23～ 6/2「書写材料と印刷文化展」

展示概要

会期：2007年4月23日（月）～6月2日（土）※本展示は終了いたしました。

紙や活版印刷の発明が社会や文化に与えた影響はきわめて大きなものでしたが、電子メディアの時代を迎えた今、印刷技術の変容や書物と私たちとの関わりなどの問題については、多様な視点から考えてみるものが求められています。紙が発明される以前の時代にはどのような材料を用いて書写したのでしょうか。また、印刷技術の進展によってどのような書物を作ることが可能になったのでしょうか。今回の展示では、近代にいたるまでの書写材料の歴史について、文理学部資料館所蔵の日本の古い印刷物や世界の書写材料・書物などを中心にして紹介します。

▲[ページトップへ](#)

2007年 6/18～ 7/28 「肉筆で見る近代文学の多彩な世界(ジャンル)」

展示概要

会期: 2007年6月18日(月)～ 7月28日(土) ※本展示は終了しました。

近代文学がそれ以前の文学と異なるのは、明治の出発当初から活版印刷による大量出版の上に成立してきたことである。にもかかわらず近年になってワープロやパソコンが普及するまでの100年以上の間、文学者たちは、手紙や日記と同じように、筆やペンなどを使って手書きで原稿を書いてきた。しかも原稿をそのように手書きで書くという作者個人のパーソナルな身体的行為や、そこに現われた個性が、作品の文学的価値と切り離しえないものと考えられてきた。規格化された没個性の活字と、隠微なまでにプライベートな肉筆！近代文学の世界は、考えてみれば、このまことに不思議な矛盾と対立を内包しながら、それをきわめて自然に見せかけるための装置あるいは制度だったといえるかもしれない。

そうしたわが国の近代文学の外形的特質は、当然のことながらその内容にも反映し、小説を中心に、その周辺に詩歌、俳句、戯曲、評論、随筆、日記、書簡などの多様なジャンルを展開させ、各々の境界を曖昧にしたまま全体として「文学」を形成してきた。

本展示は、本学部資料館蔵と個人蔵の限られた肉筆原稿資料に、何点かの複製原稿を加えて、そうした近代文学の豊かで多彩なジャンルの一端をうかがおうとするものである。

▲ [ページトップへ](#)

2007年 9/25～11/5「日本大学商学部構内の遺跡を掘る～世田谷区大蔵遺跡第8次発掘調査～」

展示概要

会期：2007年9月25日(火)～11月5日(月)※本展示は終了しました。

発掘された遺跡は、ほとんどの場合、調査終了後に壊れてしまいます。さらに、遺跡は掘り出された瞬間から踏まれ、乾き、削られることで破壊が始まります。そのため発掘調査時が、当時の生活を瞬間的に最も鮮明に見る事ができるのです。当時の生活の跡である住居址などの遺構は、実測や写真といった方法によって記録することで保存します。また、生活で使用した土器・石器などの遺物は、発見された状態を記録し、遺構の記録とともに詳細な調査・研究がおこなわれます。

今回は、世田谷区大蔵遺跡第8次発掘調査で発見された遺物と、これらの遺物を発掘調査後どのように扱っているのか、また、発掘調査がどのようにおこなわれるのかについて展示いたします。

▲[ページトップへ](#)

2007年11/15～11/30「世界を魅了した日大文理のアスリート列伝」

展示概要

会期：2007年11月15日(木)～11月30日(金) ※本展示は終了しました。

体育学科創設 50 周年記念展示会世界を魅了した日大文理のアスリート列伝

文理体育のアスリート列伝は、古橋廣之進先生「フジヤマのトビウオ」から始まりました。そして、現在までに数多くの文理アスリートが世界の人々を魅了してきました。そこで、日本大学文理学部体育学科創設 50 周年を記念して、オリンピックや世界選手権などで活躍されたアスリートたちの足跡を、画像・映像・実物にて展示・紹介します。文理学部内での生活風景やオリンピック秘話などとともに、その活躍の様子を身近に感じてください。

▲[ページトップへ](#)

2007年12/8～12/24「江戸八百八町をあるく」

展示概要

会期：2007年12月8日(土)～12月24日(月)※本展示は終了しました。

現在の皇居を中心とした東京都心部は、約400年前に徳川幕府が開かれ政治の中心として栄えてきた「江戸」という大きな町でもありました。

今回の展示では、江戸に関する地図・地誌・名所案内などの資料をご覧いただくことを通じて、「江戸」という町の当時の様子・出来事などを、さまざまな観点から“目であるく”ことができるように企画いたしました。

時代を超えて、かつての「東京」の姿を思い描いていただければと思います。

▲[ページトップへ](#)